

南海トラフ地震対策推進本部アドバイザーからの意見

令和3年度 南海トラフ地震対策推進本部アドバイザー

	氏名	大学名	所属	役職
1	イマムラ フシヒコ 今村 文彦	東北大学	災害科学国際研究所	所長
2	オカムラ マコト 岡村 眞	高知大学	防災推進センター	名誉教授
3	カタダ トシタカ 片田 敏孝	東京大学	大学院情報学環	特任教授
4	カネダ ヨシユキ 金田 義行	香川大学	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター	センター長
5	カワタ ヨシ アキ 河田 恵昭	関西大学	社会安全学部社会安全研究センター	センター長 ・特別任命教授
6	ハラ タダシ 原 忠	高知大学	教育研究部自然科学系理工学部門	教授
7	フルムラ タカシ 古村 孝志	東京大学	地震研究所災害科学系研究部門	教授
8	マキ ノリオ 牧 紀男	京都大学	防災研究所社会防災研究部門都市防災計画研究分野	教授
9	ヤモリ カツヤ 矢守 克也	京都大学	防災研究所巨大災害研究センター	教授

【第4期計画の総括について】

- ▶ 全体として概ね対策は順調に進捗しており、方向性は適切であるとの評価を受けた。
- ▶ 一方、進捗が遅れている対策については、取り組み方法や計画に無理がないか、方向性が間違っていないかについて再検討すべきとの指摘を受けた。

【第5期計画の取り組みについて】

- ▶ 自助の取組を促すための啓発をさらに積極的に行っていく必要がある。
- ▶ 復旧・復興に向けた取り組みを強化する必要がある。
- ▶ 様々な支援を受け入れるための受援態勢の実効性の確保が必要である
- ▶ 高知市の長期浸水対策を加速する必要がある。

〈南海トラフ地震対策推進本部アドバイザーからの主な意見について〉

「命を守る取組」について

- 県民の南海トラフ地震に対する意識が薄れてきているのではないかと。地域の防災対策を推進するための戦略的な啓発や、防災教育を工夫・充実させるなど、啓発に向けた新たな取組を積極的に行っていくべき。
- 住宅の耐震化やブロック塀対策、家具家電の固定、食料・飲料水の備蓄などの自助の取り組みの推進に向けて啓発等を加速化させる必要がある。
- 液状化対策にしっかりと取り組んでいただきたい。
- 個別避難計画の作成を進めることは、地域の避難計画を地域の皆さんで考えることにもつながっていくので非常に重要。できる限り早めに作成完了できるよう取組を進める必要がある。
- 県民の臨時情報に対する認知度が低い。命を守るために重要な情報なので、様々な場を通じて、臨時情報が発表された場合の具体的な状況や備えについての啓発を行う必要がある。

「命をつなぐ取組」について

- 早期復旧に向けて TEC-FORCE を受け入れるための体制づくりに取り組む必要がある。
- 国等からの支援物資や給水支援を円滑に受け入れられるよう、受援態勢を整備しておく必要がある。
- 避難所運営や自主防災活動など地域の取り組みに、女性や若年世代などにも主体的に関わってもらうような仕組みづくりに取り組んでいく必要がある。
- 避難所運営や罹災証明の発行効率化、処方薬の管理など、様々な場面において DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用を考えていく必要がある。
- 長期浸水対策は、各取組が連動しているので、進捗が遅れている取組については、課題分析と対応を検討し、第5期計画期間中に大きく進捗させる必要がある。

- 長期浸水によりどこまで浸水するのか、浸水するとどうなるのかを住民に認識してもらい、しっかりと備えてもらう必要がある。
- 災害関連死を防ぐためにも、DPAT や DWAT を受け入れるための体制づくりに取り組む必要がある。
- 広域火葬にあたっての搬送体制や仮埋葬、棺桶の確保等、遺体対策も進めておく必要がある。

「生活を立ち上げる取組」について

- 事前復興まちづくりについては、東日本大震災の事例などを教訓に、できる限り具体的な計画となるようしっかりと取り組むべきである。
- 仮設住宅を確保するにあたっては、従来の生活拠点の近隣で確保するなど被災者のニーズに沿った対応が必要である。
- 東日本大震災では、商業施設の復旧の遅れが復興のボトルネックになった。早期に産業を復旧・復興するための取り組みを強化する必要がある。
- やむを得ず県外に避難する県民も多数いることが想定されることから、県外避難した県民を呼び戻す対策も検討しておく必要がある。
- 復興手順書は、タイムラインを意識する等、発災後に使いやすいものとするよう工夫する必要がある。

計画全体について

- それぞれの取り組みを検討するにあたっては、女性や外国人、アレルギー保持者への対応などダイバーシティの視点を取り入れる必要がある。
- 目標値を設定して取り組むことは重要だが、数値は達成していても中身が伴っていない場合がある一方、数値上は未達成でも取組としては進んでいる場合もあるので、数値だけでなく、進捗内容にも留意する必要がある。